

元全日本女子バレーボール選手

三屋裕子さん

講演会リポート



バレーボールを通じたさまざまな体験を語る三屋さん。最後は好きなゲーテの詩を読んで締めくくった



元オリンピック選手の人生を垣間見るトークに熱心に聞き入る会員ら

三屋裕子さんの講演会「バレーボールと私、いつも燃えていたい」は7月26日、東京エレクトロンホール宮城での県社協主催の夏祭りで開催された。三屋さんはオリンピックにも出場したバレーボール選手で、現在はみのもんたさんが司会を務める朝の情報番組「朝スバッ!」(TBSテレビ)の火曜のコメンテーターとしてもおなじみ。すらりとした長身や長い手足が、ステージに映えた。

バレーボールとの出会いや現役時代の壮絶な練習に耐えた日々、引退後に出会ったシニアのバレーボールサークルとのエピソードなどを語った。印象的だったのが、いきいきライフの読者世代と同じ60〜80歳代(当時の主婦が所属するバレーボールサークル「大正産」)の話。三屋さんが30歳の時に指導を通じて交流を深めた。

家庭で年寄り扱いされることや嫁との関係などで少なからず悩む女性た

年齢で夢を諦めない

だが、生き生きとプレーしていた。「勝つバレーボールしか知らなかった自分にとっては、そんな風に楽しみながらバレーボールと付き合っている人たちの姿は目からうろこだった」と明かす。

この出会いが、アスリート育成のスポーツから現在に通じる「健康維持のためのスポーツ」へ活動をシフトするきっかけになったという。

また、自身のバレーボール選手としての歩みにも触れた。毎日、教室と体育館の往復だった10〜20歳代。「自分の時間を犠牲にしてきた」と話しながら「今は、どんなに願ってもオリンピックには出られない。あの時バレーボールができてよかった」と振り返った。

「限界は自分の中にあるもの。やりたいことがあったら、年齢で夢を諦めないで」と強調し、「シニア世代が日々を謳歌(おうか)している、われわれも勇気づけられる。1日でも1年でも長く人生を楽しむために、ちよつとだけ健康づくりに気を配って」とも呼び掛けた。

投稿をお待ちしています

◆投稿の決まり
【お便り・エッセー】
郵便またはEメールで500字程度
【短歌・俳句・川柳・絵手紙】
短歌・俳句・川柳の場合は、はがきまたはEメールにジャンルを明記
【写真】
簡単な説明と撮影日、場所を
▼記入事項
郵便番号、住所、氏名、年齢
▼宛先
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3
宮城県社会福祉協議会
「いきいきライフみやぎ」係
Eメール g055@miyagi-sfk.net
▼注意点
原稿はお返ししません。添削することがあります
二重投稿はご遠慮ください。お便り・エッセーには、年齢を明記。秀逸作品には薄謝を進呈します

2012 冬号締め切りは
10月31日(水)です

短歌

お互いに励まし合える友がいて
文通続く七十余年
仙台市泉区 山辺 つよし

青々と枝に連なる梅挽ぎに
精出す農夫に笑顔が満ちる
仙台市泉区 村上 新吉

奥入瀬の早瀬に沿って川燕
晴れやかに来て身をひるがへす
仙台市太白区 勝 美彰

春雨の寂しい町にツバメ来る
ヤット安心町生き返る
大和町 大友 正雄

孫帰りに心の中に吹く風は
どこか寂しい秋風のように
仙台市若林区 関 和幸

俳句

石苔の伽藍の跡や花苧蒲
大崎市 内海 嘉子

翡翠の飛翔見に来よ草の庵
仙台市太白区 矢崎 卓

雲形の変る早さや額の花
美里町 遠藤 昌子

桔梗や病の篤き友笑顔
美里町 後藤 美智子

菜園の雨後の双葉や蝸牛
加美町 板垣 綱紀

川柳

災害に耐えて今年も稲穂揺れ
仙台市宮城野区 戸田 信

子が老いてジューは
冥土に近くなり
仙台市青葉区 菊地 昭治

政界もわが者顔で批判する
大崎市 高橋 満博

お料理はやさしい女の
ラブレター
美里町 森 萬

財僅か人情味だけたんまりと
石巻市 丹野 幸江